

メジャー&キャリア Major & Career

メジャー&キャリア

▶ 一覧に戻る

🖨 本文印刷

▶ 角田雄彦さん 第一回



■ プロフィール

1973年東京生まれ。私立武蔵高校卒。1996年にICUの人文科学科を卒業。卒業後に学士編入した東大法学部在学中に、合格率2%の難関を突破し司法試験合格。弁護士として活動する傍ら、一橋大学大学院博士課程を修了し、博士(法学)の学位を取得。現在は、東京リベルテ法律事務所の実務家として活躍しながら、白鷗大学法科大学院の准教授やICUの非常勤講師などとして教育、研究活動にも従事。

ICU同窓会のインタビュー「[今を輝く同窓生たち](#)」のインタビューも合わせてご覧ください。



聞き手: 三上さん(4年生)、諸岡さん(2年生)

<第一回:メジャー選びの基準は「人」でした>

諸岡 まず、今現在、弁護士としてどのようなお仕事をされているのかお聞きしたいのですが……

角田 お話する前に誤解のないようにしておきますと、私は**典型的な弁護士像にはあてはまりません。**

まず、大学の教員をしているという点が違います。割合でいえば、6割が教員、2割が研究、2割が実務、という感じでしょうか。



三上 実務では、どういった分野のお仕事をされているのですか？

角田 **何でも屋**ですね(笑)

三上 というと？

角田 個人や中小企業の方から依頼されたことは全部やる、ということです。

通常ICUを卒業して弁護士になる人は、企業の国際渉外業務などに携わることが多いと思うのですが、そういう仕事ではないですね。

ほかには、ライフワークとして子どもの権利に関することにとずっと携わってきました。

ただ、それは、自分なりに意識してやっているというだけで、食べて行くための稼ぎを生むものではありません。

ICUの人は、好きなことをやって稼ぐこともできると誤解している人が多いですからね(笑)。

一同 (笑)

諸岡 弁護士にはいつ頃からなろうと思っていたのですか？

角田 小学生くらいからです。

諸岡 小学生(笑)！何がきっかけだったのですか？

角田 まあ単純に、法廷弁護の活動がかっこよさそうだなという。そういうレベルでした。

三上 すると、小学生の頃から一貫して弁護士を目指していたのですか？

角田 いえ、一時期、国際機関の職員になりたいとも思っていました。

諸岡 なぜ国際機関、だったのですか？

角田 それはまあ、ICU生らしい理由です。日本は豊かだから、何か人権の問題というのは日本の外にある、みたいな話です。

今思えば、大した根拠もなくそう思っていたんですね。

まあ、そういう思いがあったので、IS(国際関係学科)に入ったのですが、3年時にヒューマニ(人文科学科)に転科しました。

三上 ISとヒューマニって……全く違いますよね？

角田 そうですか？

全く違うと思う、その感覚に問題があるかもしれませんね。

私がICUIにいた頃は、そんなに違いを感じなかったですよ。どちらにしろ、1年生のときから専門科目なんて取らないじゃないですか。

諸岡 確かに……。では、ヒューマニに転科した理由は何だったのですか？

角田 端的に言ってしまうと、**人、です**よね。

諸岡 人……？

角田 つまり、その分野だから選ぶのではなくて。私は教員との関係で選びました。

諸岡 将来のために人脈を広げる、という感覚ですか？

角田 またそれも全然違う発想ですね。

というか、人文科学の人脈なんて、仕事をする上で役に立つという発想からもっとも縁遠い分野ではないでしょうか(笑)。

そうではなくて、会話などをしていて、**刺激になるかどうか**、ですね。

諸岡 刺激、というと？

角田 自分が鍛えられそうだとか、頭が良くなりそうだとか、そういった感覚です。

つまり、考えさせてくれる人物の存在、ということですね。

三上 それか、ISIではなくて、ヒューマニにあると感じたわけですね。

角田 私はそう思いました。

三上 ちなみに、そんな魅力的な先生とは、どなただったのですか？

角田 出会いとしては古屋先生でした。

そして、並木先生ですね。

並木先生がいっしょにいらなかったら、ヒューマニに転科してはいなかったと思います。

三上 並木先生のもとでは、どのような勉強をされていたのですか？

角田 並木先生は、旧約聖書学が専門です。

伝統的な旧約聖書学では、ヘブライ語の文法などを学び、解釈をするわけですが、並木先生は、ICUの学部教育では、そういったことをそのままやることは相応しくない、という考えを持っておられます。

なぜなら、学生を旧約聖書学の専門家に育てることを主としているわけではないからです。

三上 すると、角田先生ご自身、聖書やキリスト教の精神に興味があったわけではなかったと？

角田 そうですね。

キリスト教に抵抗感はなかったですけど、だからといって、信仰として、旧約聖書学の真髄を知りたいんです！みたいなことがあったわけではありません(笑)。

ただ、古代イスラエルにおいて、どのような歴史的危機があったのか、その結果、なぜ旧約聖書に結実したような思想が生まれたのか、ということには興味がありました。

そしてそれを、今の時代に当てはめて考えたりするわけです。

現代にもその縮図のような構造があるのではないかと、とか。

三上 なるほど、法律とは別に、そういった勉強もしていたわけですね。

角田 別というか、**結局、旧約聖書は法そのもの**ですからね。

一同 はあ～なるほど～。



三上 ちなみに、そういった学びの中で、並木先生のどのあたりが刺激になると感じたのですか？

角田 とにかく**引き出しが広い**んです。

極めて色々な分析ツールを持っていて、「それは関係ないね」とは絶対に言われないんですね。

諸岡 学生の意見を否定しないという感じですか？

角田 もちろん、批判的になることはあります。

ただ、よく、自分に合った答えが出てこない、流して次の人に当ててしまうような先生もいらっしゃるじゃないですか。

でも、並木先生は、それは絶対にせず、とことん付き合ってください。「何で君はそう考えたんだ」と問いかけ続ける感じで(笑)。

三上 今、先学期とった角田先生の授業を思い出して、並木先生の影響が大きいんだなと思いました。

角田先生も学生ととことん向き合う授業をされますよね。

角田 影響はありますよね。

私も絶対に頭から否定はしません。

学生の考えを引き出していこうとしています。正解を求めないんです。

[<次へ>](#)

<ぜひ感想を majorandcareer★gmail.com にお送り下さい>

※★を@に置き替えて下さい

もくじ

[第一回 メジャー選びの基準は「人」でした](#)

[第二回 メジャーとキャリアの関係は..](#)

[第三回 メジャー選択よりも大切なこと](#)

[第四回 「無駄なもの」は何もない](#)

ツイート

いいね! 0